

関西大学 経済・政治研究所  
平成22年度 第1回 公開セミナー  
子どもの安全と  
リスク・コミュニケーション研究班

日時 平成22年7月12日（月）

13：10～15：00

場所 高槻ミューズ・キャンパス

西館7階 M706 教室

司会・導入報告

亀井克之（主幹・社会安全学部教授）

「フランスの公園・遊具と子どもの安全」

テーマ：遊具事故を防止するために  
～ソーシャル・リスクマネジメントからのアプローチ

報告者：松野 敬子

（NPO 法人子ども育成支援協会理事、子育てアドバイザー）

● 聴講申込制：7月5日までに下記事務室へご連絡下さい。



関西大学 研究所事務室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35

TEL 06-6368-1179 / FAX 06-6339-7721

E-mail : keiseiken@ml.kandai.jp

**関西大学 経済政治研究所 公開セミナー  
「子どもの安全とリスク・コミュニケーション」研究班**

2010.7.12  
13:10～15:00  
関西大学 高槻ミュージックキャンパス  
西館 M706教室

司会・導入報告  
「フランスの公園・遊具に見る子どもの安全」

**亀井 克之**  
関西大学 社会安全学部  
kamei@kansai-u.ac.jp

1

**関西大学 経済政治研究所  
「子どもの安全とリスク・コミュニケーション」研究班  
2010年4月～2012年3月  
地域社会とリスクマネジメント  
社会科学からのアプローチ**

**子どもの安全についてクロスロードのようなゲームを作る**  
ケータイ 岡田 朋之(総合情報学部)  
個人情報の保護 子ども産業  
高野 一彦(社会安全学部)  
久保田賢一(総合情報学部)  
メディア教育 奈良由美子(放送大学)  
インターネット・防犯 尾久 裕紀(白梅学園大学)  
メンタルヘルス

→とりまとめ **亀井 克之(社会安全学部)**

2

**子どもの安全から見たフランス点描**



・ 南仏 エクス・プロバンス市 マルセル・パニョル小学校

3



**子どもを守る**



リヨンのVELLEIN (ヴェラン公園)  
ブログ「フランスのリヨン日記」より




VELLEIN (ヴェラン公園)  
1994年8月10日のデクレ(政令)による  
安全基準に合致した遊び場

遊具は  
フランス規格 54201  
ドイツ規格 7926に準拠

子どもの遊びは親の責任の下に行う

メンテナンス:  
市テクニカルセンター 74 96 02 13

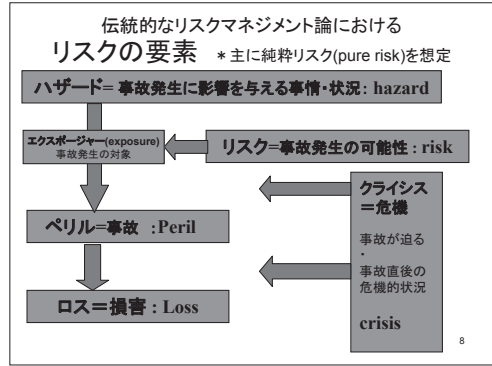
↓  
その後 EUの安全基準  
EN 1176-1 à 7.  
EN 1177

6

### 公園・遊具の安全

- ・ リスクマネジメント論の観点からの考察
- ・ 箱ブランド問題の再考察
- ・ 安全基準の問題
- ・ 点検の問題
- ・ 消費者庁ができて
  
- ・ 公園・遊具の安全研究分野におけるリスクマネジメント用語

7



■ ISO 31000(2009)による定義

**ハザード hazard 「潜在的な危害の源」**  
*source of potential harm = リスクの源 risk source*  
 「単独または連結して、リスクを発生させる本質的な潜在力を有する要素」 *element which alone or in combination has the intrinsic potential to give rise to risk*

■国土交通省『都市公園における遊具の安全の確保に関する指針』(2002年、改訂2008年)

ハザード: 遊びの持っている冒険や挑戦といった遊びの価値とは関係のないところで事故を発生させるおそれのある危険性。また、子どもが予測できず、どのように対処すれば良いのか判断不可能な危険性。

→重大な事故につながるおそれのある物的ハザードを中心に除去する

9

ISO 31000(2009)による定義

**リスク risk 「目的に不確実性が及ぼす影響」**  
*effect of uncertainty on objectives*

- ・ 純粋リスク(Pure Risk) ← 予防・保護・保険
- ・ 管理すべきリスク Risk to manage
- ・ 投機的リスク(Speculative Risk) ← 戦略的意思決定・決断
- ・ とる/選択するリスク Risk to take

■国土交通省『都市公園における遊具の安全の確保に関する指針』(2002年、改訂2008年)

リスク: 遊びの楽しみの要素で冒険や挑戦の対象となり、子どもの発達にとって必要な危険性は遊びの価値のひとつである。

→適切に管理して残す

・ 「遊具の安全確保に当たっては、子どもが冒険や挑戦のできる施設としての機能を損なわないよう、遊びの価値を尊重して、リスクを適切に管理するとともにハザードの除去に努めることを基本とする」<sup>10</sup>

### アンリ・ファヨール 経営管理論の始祖

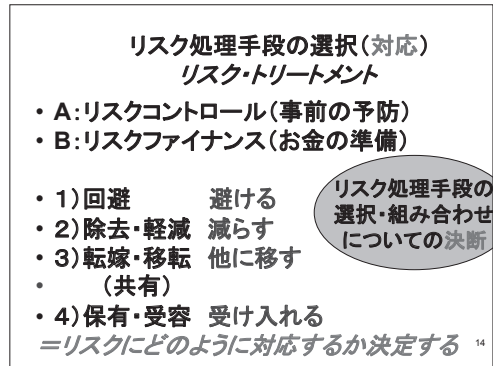
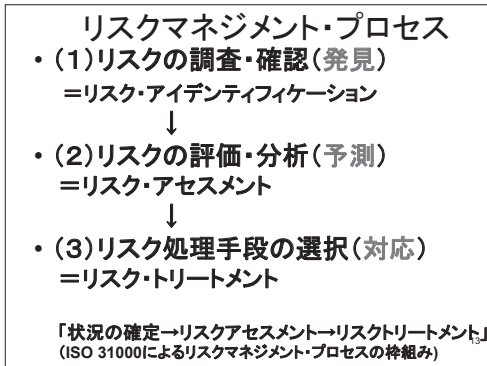
- ・ 『産業ならびに一般の管理』(1916)
- ・ 技術・商業・財務・会計・保全・管理
  
- ・ 保全的職能 = 資産と従業員の保護
- ・ 企業経営におけるリスクマネジメントの重要性を
- ・ 世界で初めて指摘

11

### リスクマネジメント

- ・ ISO Guide 73 (2002)の定義
- ・ →ISO 31000 (2009)の定義
  - 「リスクに関して組織を指揮し統制する調整された活動」
  
- Risk Management
- coordinated activities to direct and control an organization with regard to risk

12



関西大学経済政治研究所 公開セミナー 「遊具と子どもの安全」

「子どもの安全とリスク・コミュニケーション」班

2010年7月12日（月）

13時15分～15時00分

関西大学 高槻ミューズ・キャンパス M706教室

司会・兼・導入講演

亀井克之（社会安全学部 教授・「子どもの安全とリスク・コミュニケーション」研究班主幹）

「フランスの公園・遊具と子どもの安全」

講演

松野敬子（NPO法人子ども育成支援協会理事、子育てアドバイザー）

「遊具事故を防止するために～ソーシャル・リスクマネジメントからのアプローチ」

子どもたちの遊び場に設置された遊具での事故防止は、消費者庁が2009年12月に立ち上げた「子どもを事故から守る！プロジェクト」で重点課題と位置付けたように、社会的な関心が高まっている。

我が国では、1990年代に遊具の重大事故が頻発したことをきっかけに、遊具の安全規準の必要性が議論されるようになり、2002年に国土交通省から「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」及び、遊具メーカーの任意団体である（社）日本公園施設業協会から「遊具の安全に関する規準」という数値規準が示されている。8年が経過し、新たに設置された遊具や遊具の管理体制には改善はみられてはいるものの、安全規準に合致していない遊具はいたるところに放置され、遊具事故は散発的に発生し続けている。事故が発生すると、多くの場合、遊具の撤去が行われ、空き地化する公園も増えた。実際、多くの課題がこの8年間で見てきたと言える。

本公開セミナーでは、遊具の安全規準が示されたにもかかわらず、遊具の重大事故の防止とならず、子どもの遊び場の改善が実現されなかったのは何故なのかを論じる。

